

令和6年度

自己点検・評価報告書

令和7年3月実施
学校法人 神村学園

神村学園専修学校

目次

1	学校の教育目標	P3
2	本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P3
3	評価項目の達成及び取組状況	
(1)	教育理念、目標	P4
(2)	学校運営	P5
(3)	教育活動	P6
(4)	学修成果	P7
(5)	学生支援	P8
(6)	教育環境	P9
(7)	学生の受け入れ募集	P9
(8)	財務	P10
(9)	法令の遵守	P10
(10)	社会貢献・地域貢献	P11
(11)	国際交流	P12
4	学校評価の具体的な目標や計画	P12

令和6年度 自己点検評価表

神村学園専修学校

1 学校の教育目標

実学による人間性豊かな人柄

神村学園では学力向上と人柄教育を両立させることを教育理念としている。専修学校では「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」をより深く学び、実習においては技術・技能を磨いていなければならない。しかしながら免許や技能はあくまでも仕事上の条件であり、人間としてのモラル、基本的なマナーを根底に置き、専門職としての職務を果たせるようになることが目標である。看護師・理学療法士・作業療法士・保育士の免許が最大の目標ではなく、その資格・免許を通して社会に貢献できる人材育成を教育の目標としている。

(日本語学科)

日本語教育並びに建学の精神である人柄教育を通し、国際社会に貢献できる資質を備えた感性豊かな人材を育成する。

責任

自分の行動や感情に対して責任を持ち、すべてに対して誠実に対応できる人材の育成に努める。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「神村学園の教育理念」である「人柄教育」「個性教育」、そして人柄教育の3つの柱(「礼節・誠実」「チャレンジスピリッツ やり抜く力」「チームワーク・コミュニケーション力」)に基づいて基本的方針を策定・実践する
①国家試験全員合格 ②授業の中身の充実 ③オープンキャンパスの充実(募集活動の充実) ④環境美化に努める ⑤就職支援活動 ⑥専任教員養成講習会において看護学教育を深く学ぶ。 ⑦社会性、コミュニケーション、創造力の向上 ⑧留学生の大学進学率を上げる ⑨専門学校・大学合格、日本での就職等、学生個々の目標達成のためのカリキュラムの実施⑩社会性・コミュニケーション力・想像(創造)力を備えた人材の養成 ⑩取りこぼしのない学生指導

3 評価項目の達成及び取組状況

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(1)教育理念、目標		評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3
2	学校における職業教育の特色は理解しているか	3
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色将来構想などが学生保護者等に周知されているか	3
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

学生・保護者に関しての周知徹底がまだできていない状況
 学生の社会性、コミュニケーション能力、メタ認知の低下
 進級基準を、明確に適切に対応できていない
 自ら学ぶ姿勢をさらに高める必要がある
 教育理念は明確であるが、実現していくために中期的な目標の明確化が必要
 オスキーや実習に向けての取り組みが今、修正段階である
 教育に割く時間がひっ迫している
 少子化の進む日本社会で必要とされる外国人人材を育成するだけではなく、受入れる側の理解が必要である。

②今後の改善方策

教職実践等で外部講師の授業や内部教員からの日頃からの指導の徹底
 保護者会などでしっかりと話ができるようにする。時間がある際に教員から学生に伝える。
 実習等でも質問されるため、本校の教育理念について、SHや実習前等に理解する機会をもつ必要がある。
 少しずつ、その都度指導し、学生自身の自己評価と他者評価のすり合わせを行っていく
 進級規定をしっかりとする
 自分の考えを発表する機会を与えてみて良いかと思います。スピーチなど
 業務の分担、切り離し
 外国人に対する日本語教育はこれまで通り行いつつ、外国人を受け入れる日本人の理解を広めていく授業も実施できればと思う。

③特記事項

グレーゾーンの学生の対応に感わされ、教員、学生とも疲弊している
 ビザ申請・更新等の事務作業や生活指導全般
 各学科の国語(学科によって教科名は異なる)で留学生との交流授業を行っており、今後も継続していきたい。出来れば教職員にも参加していただきたい。

(2) 学校運営		評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

事務作業を教員が請け負いすぎている
 このような内容等がわかるように視覚化することが課題。
 具体的な対策などができているように感じられる。
 稟議書や経費支払報告書等の許可をもらうため時間がかかる。授業や学生対応の合間を縫って許可をいただきに伺っても、上層部とのタイミングが合わず非常に効率が悪い。お互い多忙なため、タイミングを合わせるのは運任せの状態です。
 マニュアルなどの不備。誰が統一した業務をしやすい環境が必要
 会計を教員がしている。授業や実習など不在もあるのできちんと経営管理する上でも会計管理が必要
 職員の面談をして欲しい。(例:病院だと経験年数で聞き取りもある。) ネット環境が不安定 しっかりと休憩がとれてると感じない。
 システム導入から2年が経過したが、まだまだ十分に使いこなせているとは言えない。

②今後の改善方策

職種別による業務分担内容を整理する
 それぞれの内容を一覧にし、明確にしたものを行っているものを配布し一人ひとりが目を通し理解することが大切
 今の状況を引き続き継続していくことが大切である
 稟議書等を共有し電子印鑑で許可がもらえるようにできれば常務の効率化につながる。出張等で校内にいらっしゃらない時も電子化にしているとスムーズに進められる。
 業務の分割化 時間休

③特記事項

授業と事務作業の両立に注力しているが、限界を感じる。

(3) 教育活動		評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先進的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

教員一人ひとりの知識や技能の向上
 日々の業務をこなすのが精一杯であり、校外へ研修に行く機会がない
 業務に対する教員の数不足のため、自己研鑽できる時間を確保することが全くできていない。従来の日本語学校であれば生活指導担当、事務担当者、授業担当に分かれている業務内容を専任教員だけで全て賅っている状況のため、授業準備がここ数年、ほとんどできていない。
 教員が臨床から離れている 授業改善のための指導力向上の充実
 学則等の規定の基準が曖昧な点がある
 学生層の変化に応じたカリキュラム変更を検討すること

②今後の改善方策

専門分野の研修等に出向くことが大切
 業務の効率化をより一層進めるのはもちろんだが、現在の業務内容に沿った教員確保を進める。学費を上げるなどして人材確保。
 研修での学びの共有、教育実践活動への具体的に活かす方策を考える
 学則等の規定そのものの見直し、運用の見直し
 外部試験・学生面談の結果をもとに今後の方針を決定する
 良い教育を提供するためには教員の能力開発は不可欠であり、研修に参加出来る余裕を確保したい。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果		評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

県内就職率をあげる
 学習者目線に立った行事、実習記録、課題の検討
 退学率の低減(退学率を減らし、進学率を増やしたいが、入学者の多様性により難しくなっていると感じる)
 専門職への明確なイメージ展開
 日本語能力試験合格にあと一步点数が足りない学生が何名かいた。

②今後の改善方策

卒業生と在校生の交流の場を設ける
 奨学金説明会は県内の病院に関しては各教室をブースとして説明会を実施する必要がある 他校との違いをもっと明確化するために改革が必要
 漢字の読み書きを中心に指導を強化する。※漢字がわからないため、問題文や文が読めず正解を逃してしまう
 学習習慣のない学生が多く、やらせるではなくやらないといけない意識づけを行っていく

③特記事項

退学者の軽減についてはとても難しい課題である

(5) 学生支援		評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

保護者、学生の電話対応は内容によっては非効率
社会的ニーズの環境の整備
支援が必要な学生に対し、教員のマンパワーが足りていない

②今後の改善方策

大学や他校のように急な用を要しない場合、保護者連絡や学生の遅刻・欠席等の連絡をチャットで対応
男性保育士を目指す学生が増えているにも関わらず、子ども学科には男性専用のトイレがない。このご時世にはあり得ない環境 男性専用のトイレを早急に考えて作る

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(6)教育環境		評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を設備しているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3

①課題

Wi-Fi環境がない
 棟内の放送機器が整備されていないため、非常時のアナウンスができない
 学生用のコピー機がない
 施設が古いのは仕方ないが、Wi-Fi環境や机、いすなど成人用を用意すべき
 防災教育

②今後の改善方策

教室・演習室・3FライブラリーにWi-Fi環境を整備
 各部署に意見を聞き、改善していく
 学科独自の防災教育を取り入れる

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(7)学生の受け入れ募集		評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	3
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
3	学納金は妥当なものとなっているか	3

①課題

SNS活用。
 作業療法士についての周知がまだ足りないのなかなか入学生がまだ少ない
 入学してから問題がある学生が一定数いる

②今後の改善方策

SNSの活用。オリジナルのタグを作成し検索しやすいようにする
 それぞれの先生方が出身校に出向き、出身者であることを伝えた上で学生募集を行うことが大事。出身校の後輩に、出身校の先生が話をして募集活動をした方が効果的ではないか。
 ガイダンスはもちろんSNSなどを利用しながらたくさんの人にこの仕事を知ってもらうように情報の勉強もしながら取り組む
 学生募集も大事だが、学校の品位を落とすような学生は見極める必要がある

③特記事項

・特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(8) 財務		評価
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について会計監査が適正に行われているか	3
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3

①課題

よくわからないのが課題
定期的に会を開催しているので適正に行われていると思う

②今後の改善方策

内容を一覧にして配る
4月の職員会議のときにもう少し詳しく説明を

③特記事項

特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(9) 法令等の遵守		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
2	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	3

①課題

しっかりと個人個人の情報を守るための対策ができている
問題点の改善

②今後の改善方策

意識して問題点の改善を行っていないため、意識して問題点を改善することが大切

③特記事項

改善したポイントを全職員が閲覧できるようにする

(10) 社会貢献・地域貢献		評価
1	学校教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

社会貢献できるような場の提供
ボランティアなどの案内を提示し呼びかけている
ボランティアの機会がなかなかない

②今後の改善方策

自分のスキルを高めること
引き続きもっと積極的に関わられるように行く必要がある
職員の専門性を地域に還元できるようにしたい

③特記事項

いちき串木野市日本語教室が一定の成果をあげ、県内での知名度も向上している。

(11) 国際交流		評価
1	留学生の受入・派遣について戦略を持って行っているか	3
2	留学生の受入・派遣、在籍管理等において適正な手続き等が取られているか	3
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

①課題

学生が学びたいという環境を整えることが課題
学科としての取り組みは弱いように感じられる

②今後の改善方策

学生への聞き取り調査を行う
もっと外にも広げていく必要がある

③特記事項

作業療法学科には定期的に外国人が入学しており、その体制も整ってきつつある。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

もう少し具体的にわかる内容での提示。(作業が多いため作業の見直しを行い、先生方が学校目標や学校教育について考えられる時間ゆとりを与える取り組みが必要ではないか。)

現状の状況を維持しもっと取り組んでいく必要とまだまだ改善が必要なこともあるのもっと取り組んでいく必要がある。

国家試験については、まだ結果が出ていないが、新カリキュラムとなり、総合特論という科目を設け単位化したことで、学生が乗り越えなければならないひとつの壁ができた。それは学生のモチベーションを高めることにつながり、結果として点数の向上につながった。

学生募集についても、ガイダンスや学校訪問を積極的に行い、高等学校教諭とのつながりをもつことで、定数にはたっていないが、昨年度よりは受験者数も増加した。

今年度は、退学者はおらず、学生の身体的・精神的状況に合わせて、休学等を勧めるなど考える時間を与えることは必要であると考え。

前年度からの変化(目標に沿って自己研鑽に努め学生へ反映させていく)について自身が明確にできるよう努めたい

教育目標に近づけるよう努力していく